

平成19年度一般会計当初予算 28億1450万円を計上

厳しい財政状況 約1億7千万円歳入が不足

平成19年度のまちの当初予算が、3月の町議会で承認されました。

単独自立の道を模索する中、少子・高齢化や国からの地方交付税の削減など、まちを取り巻く状況は以前にも増して厳しく、「地方の崩壊」といわれるように、こうした現象は全国的にも珍しくありません。

そうした状況にあつて、平成18年度の決算では約1億2000万円の赤字となることが見込まれています。昨年のまちづくり説明会などで示しているとおり、累積赤字の解消には長い時間がかかり、まちの皆さんには様々な負担をお願いしています。

平成19年度のまちの一般会計の予算規模は、約28億1450万円。昨年度当初予算に比べ7・74割の減となっています。財政規模が30億円を下回るのは平成2年以来的のこと。

また、今年度予算では、約1億7142万円の歳入が不足し、昨年度に引き続き、いわゆる「赤字予算」となっています。

超財政難とはいえ、住民サービスを低下させることはできません。昨年度以上に徹底した事業の見直しや合理化を考え、当初予算を編成しました。

一般会計予算歳入

歳入全体の約4分の3を
依存財源に頼る

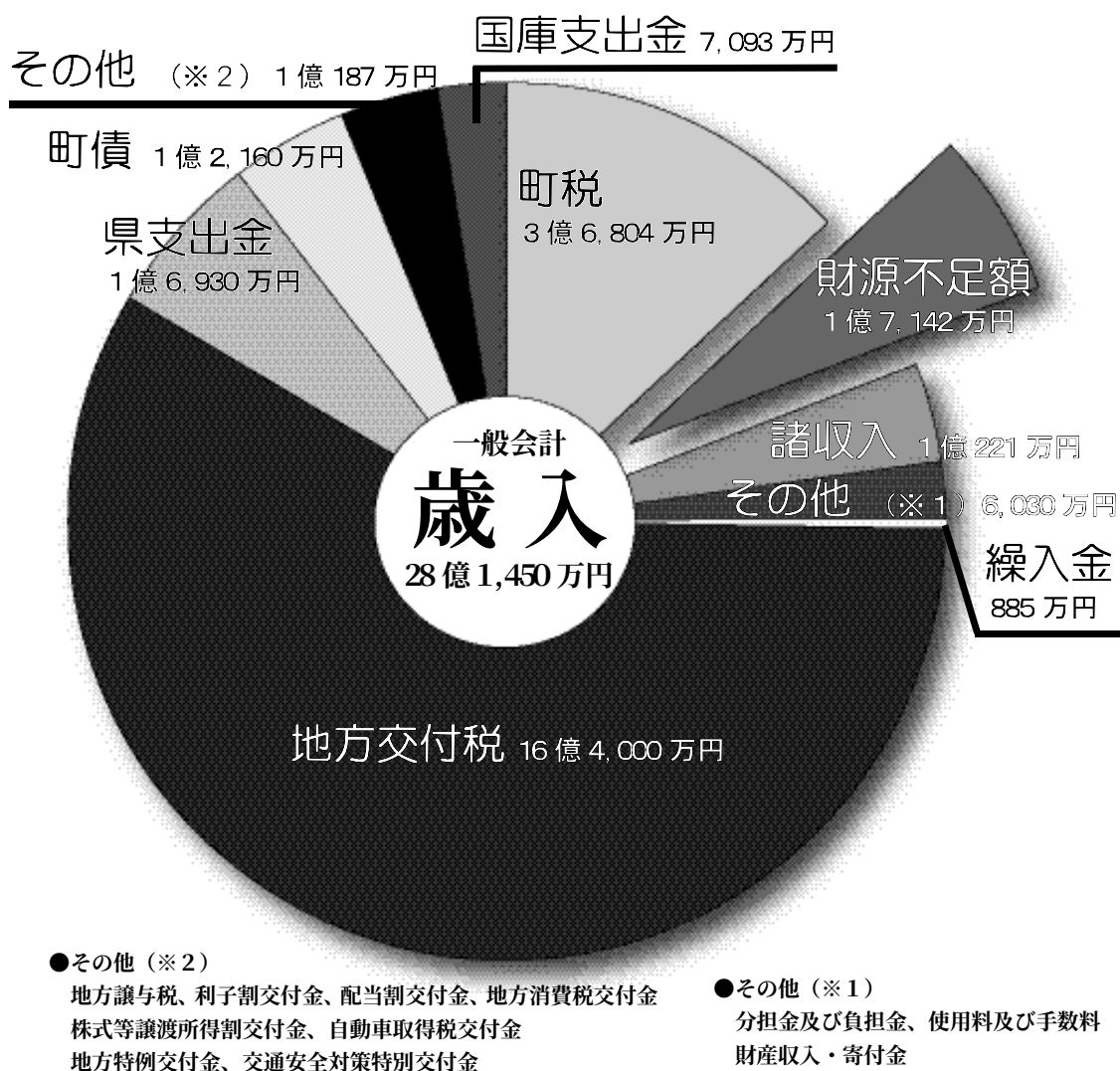
まちの一般会計の歳入（ま
ちに入ってくるお金）は、自
主的に収入できる自主財源
（町税、分担金、負担金、使
用料、手数料など）と、国・
県から交付されたり割り当て
られたりする依存財源（地方
交付税、町債、国・県の支出
金など）に分かれています。

平成19年度当初予算では、
自主財源は、総額7億108
0万円（昨年度実績見込より
9781万円の減）を見込ん
でおり、歳入全体の25・26
割を占めています。

依存財源は、地方交付税を

16億4000万円（昨年度実
績見込より3289万円の
減）、県支出金を1億693
0万円（昨年度実績見込より
2039万円の減）、事業を
行うために計画的に資金を借
り入れる町債を1億2160
万円（昨年度実績見込より1
億3580万円の減）を見込
んでいます。総額では、21億
370万円となり、歳入全体
に占める割合は74・74割に
なります。

また、財源不足となった1
億7142万円は、昨年度と
同様、雑入として計上し、収
支のバランスを取っています。
詳しくは、次のページの表
をご覧ください。



平成 19 年度一般会計歳入予算集計表

(単位：千円、△減額)

科 目	本年度金額	前年度実績見込額 (3 月補正後数値)	比較増減	対前年度比 (％)
町 税	368,036	355,019	13,017	3.67
諸収入 (うち財源不足額)	273,622 (171,417)	240,522 (123,968)	33,100 (47,449)	13.76 (38.28)
繰入金	8,847	21,124	△ 12,277	△ 58.12
地方交付税	1,640,000	1,672,892	△ 32,892	△ 1.97
町 債	121,600	257,400	△ 135,800	△ 52.76
県支出金	169,299	189,693	△ 20,394	△ 10.75
国庫支出金	70,932	113,937	△ 43,005	△ 37.74
その他 (※ 1)	60,298	191,950	△ 131,652	△ 68.59
その他 (※ 2)	101,870	137,702	△ 35,832	△ 26.02
計	2,814,504	3,180,239	△ 365,735	△ 11.50